

オリエンテーション

青の皆さん、桐朋女子高等学校入学おめでとうございます。高校入学後早々に進路の話をする、「えっ、もうなの?」と違和感があるかもしれません。ですが、入学当初から自分自身の進路について、しっかりとした意識を持って高校生活を送るかどうかは、たいへん重要なポイントです。今まで卒業後の進路のことを考えてはいなかったという人も、少しずつ意識し始めて欲しいと思います。「さくら」は進路指導部の通信で高校卒業までに30数号の発行を予定しています。それぞれのタイミングにそれぞれの意図をもって皆さんに投げかけをします。ぜひ、専用のファイルを作って保存することを習慣化して下さい。

今回は、高校1年生として心掛けてほしいことと高校3年間の流れを確認します。

1. 希望する進路を目指して

(1) 将来に向かって

皆さんは、先日、桐朋女子高等学校普通科に入学しました。人生の節目の一つです。勉強、クラブや委員会活動などに精一杯取り組み、充実した楽しい学校生活を送ってほしいと思います。そして、3年後に迎える高校卒業。これも人生の中で大きい節目の一つです。高校卒業後は勉強する分野がより専門的に分かります。どの道を選ぶのか、分岐点となります。今、当たり前のように隣り合って座っている友人たちも、3年後は、確実にそれぞれの道に進んでいることでしょう。高校1年という年は、次の大きな節目に向けて将来自分はどんなことをしたいのかを真剣に考え始める時期です。

将来自分がつきたい職業によっては、そのための専門的な学校に進学しなければならないことがあります。例えば、医者になりたいのなら医学部に進学しなければならないし、保育士になりたいのならやはりそのための学校に進学しなければなりません。一方、将来はキャビンアテンダントになりたいのなら、必ずしもそのための学校というのではなく、語学系や国際系、社会系など複数の選択肢で幅広く考えられるでしょう。例としてあげたキャビンアテンダントのように幅広い大学や専攻からつくことのできる職業のほうが、全体のなかでは多いと思います。もう一つ、人工知能(AI)の発達に象徴される急速なコンピュータ化、ロボット化によって「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%が、大学卒業時に今は存在していない職業につくだろう」(C.Davidson,2011)なんて予言が現実味を増しています。従って、「私は将来〇〇になる」と高1のうちに何が何でも細部まで決めなければならないではありません。安易に決めるものでもありません。また高校を卒業して次の学校に進学し、そこで新たな世界を知って別の道を目指すということもよくあることです。高校卒業後は進学ではなく社会にすぐ出たいという人も中にはいるかもしれません。

この春卒業した緑の先輩の進学者数は裏面の通りです。先輩方がどのようにして進学先を考えていったのかは様々ですが、『①将来の職業』のほかに『②(今以上に深く)勉強してみ

たい学問』という視点があったことは間違いないと思います。①何になりたいか、②何を学びたいか、じっくり自分の資質や意思と向き合って、目標や夢のレベルまで明確化するべく考え続けることが今の皆さんの課題です。②はもしかしたら③今は存在しない未来の職業の創造につながるかもしれません。幅広い視野にたって考えていきましょう。

(2)受験勉強

受験のためには「受験勉強」をしなければならないって言うけれど、ではいつ頃から始めればいいのか？そもそも受験勉強って何をすればいいのか？このような疑問は心のどこかにあると思います。

実は、**毎日の学校の授業、勉強が受験勉強**です。受験勉強は塾でやるもの、ではありません。学校の勉強、その積み重ねが本当の力になります。毎日の学校の勉強をおろそかにして、試験の直前だけ勉強して取り繕う、または取り繕えなかった、その繰り返しの結果、身につけておくべきことが身につけていない。その状態から挽回しようとするから、気がついたときは大変なことになっていて、学校外の塾予備校に高いお金を払って慌てることになります。そして、「間に合わない…」という悲しい結果になりかねません。

まずは、毎日の授業を大切にすること。毎日の勉強をおろそかにしていると、そのツケは積もり積もっていきます。月並みな表現ですが地道な努力を長く続けることです。「学校の勉強は受験につながっていないから」と思っている人、いませんか。そんなことはありません。しっかり予習復習をし、授業はきちんと聴き、疑問点は積極的に質問し、計画的に課題を進める。こういう当たり前のことをきちんとこなさなければ、受験に対応できる基礎体力は身につけません。そういったことをせずにいる人こそ、先程の「受験につながっていない」発言をするのです。そのようなことを言う人は、「つなげる能力がなかった」ということを告白しているようなものです。

一方で、学校の勉強だけで受験は乗り切れるのか、という質問には「いいえ」と答えざるを得ません。それなりの準備をしなければなりません。ただし、これはもう少し先になったら考えるべきことで、学校の勉強が不十分な状態で先走っても、消化不良をおこすだけです。

「まずは学校の勉強をしっかり」「余力のある人は問題集などで演習を」と考えてください。そして、自分で勉強する力を養ってください。力がつくのは授業を聞いているときではなく、自分で勉強しているときです。**自分で一人で勉強する時間をどれだけ持つかがポイント**です。高校生には18時まで使える**自習室**が用意されています。積極的に活用して下さい。使用要領は別紙「自学習を習慣に！自習室を活用しよう！」を参照して下さい。なお、皆さんの自学を支援するために、学校で何かできないか、考えているところです。英語については「ターム留学」制度や「オンライン英会話」などが始まりました。放課後についても検討中です。

(3)幅を狭めない

高1の時間割は、ほとんどが必修科目および必修選択科目です。高2に進級すると、今より多少自由選択の幅が広がりますが、それでも選択制の必修科目などは残ります。なぜ、必修科目があるのか。それは高校は生徒一人一人の成長の場だからです。そのために幅広く勉

強する必要があると考え、高校が生徒全員共通して修得すべき科目を設定しているのです。数日前に高校一年生になったばかりで、まだ授業が始まっていない皆さんは、高校の勉強は難しいのだろうとやや不安に思っているかもしれません。しかし、人生 80 余年からすると、高校の勉強はこれから生きていく上での基礎固めの段階です。この段階では、やはり幅広い勉強が必要不可欠です。「自分の進路は〇〇だから、この科目は要らない」などと思わずに、まずは勉強することが大事です。そもそも勉強は自分の可能性を広げるためのもので、初めから可能性を狭めるような判断は、本来の勉強の意義に反します。

このことは広い意味での進路選択にもあてはまることです。世の中、いろいろな生き方や人生があります。様々なことに目を向け、耳を傾けましょう。自分とは関係ない話と思うと貴重な出会いのチャンスを失うことになるかもしれません。視野の広い人を目指しましょう。

(4)本館 2 階 C ブロック職員室の隣 (本 2 2 4) に「進路指導室」があります

国内外の大学、また短大や専門学校、職業に関する資料が揃っています。一部、貸出をしているものもあります。開室時間帯は原則として平日の 9:00~11:20、12:20~16:30 (水曜~15:30、土曜~13:00) です。一度足を運んでみてください。入口は高 3 側にあります。

2. 大学入試改革について

さて、みなさんは日本で現在行われている教育改革の一つである「大学入試改革」に最初に直面する高校生 (受験生) となります。これは重要なことなので、また別の機会で説明するつもりですが、ポイントは大きく言うと次の四点となります。

その 1 : センター試験が廃止され、新たに「大学入学共通テスト」が始まる。マークシート式に加えて記述回答形式 (国語と数学) の問題が登場し、「書く力」が問われる。

その 2 : 英語四技能のバランスを重視して、「大学入学共通テスト」に英語外部検定資格 (英検、G-Tec、TOEFL、TOEIC、TEAP など) を利用する英語入試となる。

その 3 : 「知識の深い理解」に加えて「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性を前提とした協働性」をも重視する入試に変わる。多面的総合的に高校生活を評価するために、様々な活動への取り組みの記録の蓄積が求められる (「ポートフォリオ」、といいます)。

その 4 : 一般入試、推薦入試、AO 入試の差がなくなっていく (一般でも人間を見るし、推薦 AO でも知識理解をみる)。

大きな改革が行われることは事実ですが、必要以上に心配しないで下さい。桐朋女子は皆さん青の学年に照準を据えて、すでにこの改革に向けての見直しや新しい方策を進めています。先日、皆さんには「マナビジョンブック : 高校生活スタート号」を配られたと思います。よく読みましょう。その一部で関係ある記事を再編集して別紙でも示しておきます。

3. 外部資格検定について

現在の大学入試は大変多様化しており、さまざまな入試形態があります。私たちは自分にどの方法が一番合っているのか、実力を出せるのかを考えてみななければいけません。とはいえ、皆さんが高校生活をおくる中、全員がとりわけ意識的に取り組んでほしいものとして英語の検定資格取得のための取り組みがあります。これは高3からでは遅いのだ、ということ強調しておきます。すでに最近の大学入試では、国公立、私立を問わず、現代社会のグローバル化の波を背景に『英語力 (READING/WRITING/SPEAKING/LISTENING の四技能)』を重視する入試が多く見られます。これらの外部資格を受験科目1科目分に相当するものとみなす大学も増えていっているのが今のトレンドです。青の皆さんは高3の4月から12月の間に、2回の外部検定試験を受けたスコアが大学入試の英語力判断の基礎数値になることが決まっています。英語の資格試験はいろいろとありますが、これまでもよく受験していたと思われる「英検」はもちろん、「G-Tec」「TEAP」や「TOEFL」「TOEIC」,「ケンブリッジ英検」など何種類かありますので、興味のある人は積極的に調べて挑戦してみるといいでしょう。学校のある時は、当然、日曜日受験が基本ですのでお願いします。学校としても今後考えていくつもりです。いずれにせよ、担任に必ず相談して下さい。ちなみにTOEFLなどは日曜日受験の予約がかなり先まで埋まってしまうこともあるようなので、受けてみようと思う人は早めに動く必要があります。いずれにしても、入試において英語はたいへん重要な武器となります。本校のDLPプログラムでも「高度な英語発信」を目標の一つにしています。また、「ことばの力を創造力に」という桐朋女子の目指す姿勢とも重なります。国語力と共に、英語力をどんどん磨こう！

4. 高校3年間の進路関係の動き

【高1】 (概略)

4月 オリエンテーション

5月 大学説明会 (希望者)・・・全20大学

6月 大学模擬講義体験 (希望者)

6月末 新学力診断テスト (進路適性検査を含む) (全員)

- ・自分が向いている方面は何だろう? かなり多くの質問に答えます。
分析後、職業や学問に関する適性結果が、夏休み前に返却されます。

夏休み オープンキャンパスに行き、学校の雰囲気を感じて来よう

英検対策、N検対策、小論文対策の対策講座 (予定 学内実施 有料)

9月1日 外部の実力テスト (スタディサポート (ベネッセ)) 英数国

- ・英数国のテストに加え、勉強に対する取り組みの状況などを調査します。
- ・テスト結果分析のみならず、学習習慣の改善点も探ります。9月末返却予定。

10月 面談 (生徒 保護者)

10月 進路説明会 (カリキュラム作成を前に+大学を中心に入試システムを説明)

10月 Cブロック (高2高3) のカリキュラム (授業内容+時間割編成) 説明会

11月8日 外部の実力テスト（進研模試（ベネッセ） 英数国

11月 高2で選択する授業の決定

- ・選択する授業を決めるためには、この時点までに文系・理系などのおおまかな進路の方向を決めていることが望ましいが、文型理系両方を視野に入れて臨むことも可能。
- ・大学受験を考える場合、受験科目を何にするかある程度視野に入れる必要あり

12月 職業理解説明会（大学・専門学校の方々から話をきく）

2月10日 実力テスト（英数国＋社 校内作成問題の予定）

2月 大学選びに向けて（進路企画） 3月 面談

【高2】 ★青からは新大学入試に向けての変更の可能性があります。ここに示した概略は現高2のものです。

4月 オリエンテーション

5月 大学説明会（希望者）

6月 大学模擬講義体験（希望者）

8月 オープンキャンパス訪問 対策講座（高1と同様）

9月 外部の実力テスト（スタディサポート）

文化祭後 授業の予復習だけではない、いわゆる受験準備を始める

10月 面談

10月 高3の授業内容（カリキュラム）の説明会

11月 外部の実力テスト（進研模試）

11月 高3で選択する授業の決定

- ・高2の場合より具体的に進路を絞り込み、大学をはじめとするいろいろな学校のこと調べてみる。
- ・大学を受験する場合、受験科目としてどの科目を使うかをより絞り込む。

12月 進路説明会（高3進級に向けて）

2月 外部の実力テスト（スタディサポート）／志望理由書に向けて（進路企画）
／卒業生による講演会など

3月 面談

【高3】 ★皆さんの高3時の進路指導スケジュールは大きく変わる可能性があります。

例えば、新たな「大学入学共通テスト」の動きは現行のセンター試験とは違って来る見込みです。ここに示したのはあくまでも今年の高3（黄）をモデルにした概略です。

4月 オリエンテーション

- ・大学進学を考える場合、受験したい大学を考え、どのような入試が行われているのか、どれが自分に向いているのかなどを調べる。

4月 進路希望調査

5月 面談／大学説明会

- 6月 外部の模試／大学模擬講義体験
- 7月 推薦入試・AO入試などの説明会／面談
・第一志望校はこの頃までには決まっていることが望ましい。
- 8月 AO入試が始まる
- 9月 校内実力テスト／センター試験説明会／外部模試（希望者）
推薦入試が始まる
- 10月 センター試験出願
外部の模試（全員）／外部の模試（希望者）
- 11月 進路希望調査／外部のセンタープレテスト（希望者）
- 12月 面談／終講
- 1月 センター試験直前模擬体験（希望者）
センター試験を皮切りに入試が始まる

☆皆さんは今の予定では2020年度高3生で、受験年度としては2021年度入試受験生です。

5. 学業と学校生活のバランスとれた両立を

現在、入試の世界は多様化と激変の時期にさしかかっており、青の皆さんは新テスト元年の受験生となります！すでに、従来型の知識中心のペーパー試験の弊害を見直し、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れたり、思考力・判断力・分析力・表現力などを問うような入試形態が私大、国公立大を問わず模索され始めています。例えば「国立大学の入学者定員の3割を推薦でとる」という方針が国大協からも示されています。卒業した青・白・紫・緑の先輩方は、ここ数年のトレンドの前倒しの情勢のもとで頑張ってきました。ご存知のように東京大学や京都大学、一橋大学までもが推薦入試や特色入試を開始しましたが、先輩たちの中には果敢に挑戦して見事に難関国立大学の推薦入学で栄冠を勝ち取った人もいます。もちろん一般入試で頑張った人たちもいます。彼女たちに共通して言えるのは、何事にも偏りがなく、エネルギーに満ちた桐朋生だったということです。学業にしっかりと誠実に励み続け、同時に部活や生徒会行事などに熱心にとりくむ生徒、自立と両立ができる人たちでした。また、熱心な自習室ユーザーでもありました。こうした先輩たちの姿を鏡にして、皆さん青も自分の進路を考え、夢を切り拓く努力を着実に始めて下さい。応援しています。

■緑の先輩の進路の状況■

在籍人数	268名	
四年制大学	217名	
短期大学	2名	
専門学校等	6名	
海外の学校	1名	
就職	1名	
浪人	41名	(4月5日現在)